

静岡県環境影響評価審査会委員からの意見等に対する事業者の見解【第1回審査会後の追加意見】
一般国道414号 伊豆縦貫自動車道（伊豆市～河津町）環境影響評価 準備書

No.	ページ	追加意見等	事業者の見解	意見元
1	資料3 P35 ※資料3…4/28配布資料「一般国道414号伊豆縦貫自動車道環境影響評価準備書について」と同じ	林縁保護植栽では、シカの食害を受けないよう、防護措置を講じてください。	林縁保護植栽では、委員のご意見を踏まえ防護措置を検討します。 事業実施段階では、必要に応じて関係機関と協力しながら情報収集につとめていき（準備書の評価p6-1に記載）、最新知見や有識者のご意見等を踏まえ、保全措置の具体化を図っていくことを考えています。	小泉委員
2	参考資料2（非公開） P1	ニホンザルは短期間に分布を拡大することが知られていますので、道路供用後も関係部署と連携して、動向を監視してください。道路周辺に出現するような場合には、防護柵の採用を変更する必要があります。	事業化後の生態系の状況については、必要に応じて関係機関と協力しながら情報収集につとめていき（準備書の評価p6-1に記載）、有識者のご意見等を踏まえて、必要に応じた対策を実施していくことを考えています。	小泉委員
3	参考資料3（非公開） P3	猛禽類の月別確認状況は、すべての調査データを合計したものでしょうか。	すべての調査データを合計したものを記載しています。	坂東委員
4	参考資料3（非公開） P5	事業予定地はハチクマの[]個体や不明個体の生活圏となっているようですが、調査から時間の経過があり、確認調査が必要ではないですか。	平成25年から平成29年の5箇年調査を実施し、環境影響評価として十分な情報を得たものと考えています。	坂東委員
5	参考資料3（非公開） P8	この地図にあるサシバ営巣地に書き込まれた年度は、営巣地が発見された年ですか。平成25年度から29年度までの調査で、準備書5-9-93の予測結果によるとサシバは飛来しているものの繁殖確認は1回との結果でしたが、使われたのはどの営巣地ですか。影響を受ける営巣地は「付近」の2か所としていますが、「周辺」の1か所も事業予定地から500メートル程度で、繁殖が行われた場合は影響が出ると思われま。	参考資料の表記は、サシバ営巣確認年を示しています。 準備書5-9-93の予測結果では、「改変区域付近で確認された営巣地2箇所」について記載しています。その繁殖確認1回とは、改変区域付近の営巣地2箇所のことを示しています。 サシバへの影響範囲については、道路環境影響評価の技術手法H24に記載される「繁殖期：営巣地から200m」を参考に予測しています。	坂東委員
6	参考資料3（非公開） P8	事業予定地に隣接する河津下田Ⅱ期工事の調査結果が併せて示されていますが、サシバの保全はどのように行われたのですか。	河津下田道路Ⅱ期はH23環境影響評価書に基づき、環境保全措置が実施されています。事後調査で繁殖状況を確認しながら、環境保全措置として、コンディショニング（工事への馴化）、営巣林内の立入禁止、改変面積の最小化、低騒音、低振動型建設機械の使用が採用されています。 なお、上記については猛禽類に熟知した有識者で構成される委員会から助言を受けながら、進められています。	坂東委員
7	参考資料3（非公開） P8	環境省の「サシバの保護の進め方」には採食環境の保全に重点を置くことが重要とありますが、事業地の特に河津町エリアでの農村的な里山環境は十分保全されるのでしょうか。	環境影響評価では、道路事業として道路用地において実施可能な環境保全措置を検討しています。 サシバの行動圏の生息基盤に関する保全計画については、法面緑化等における採餌環境の提供という観点で検討可能と考えます。	坂東委員
8	準備書 5-9-168	サシバの保全策として馴化を挙げていますが、どのような組織体制になりますか。馴化がうまくいかなかった場合、どのような対応を考えていますか。	環境保全措置の実施においては、事業者、施工業者及び事後調査実施者が連絡体制をとることを想定しています。 サシバへの保全策として想定する馴化は、繁殖中のサシバを驚かせないための対策です。繁殖期（渡来期）よりも前から工事を確実に実施することで、対策の目的は果たせるものと考えますが、対策を実施したとしても、渡来した場合は工事を認識していると判断でき、渡来前と同様の工事を継続することで新たな負荷をかけないよう配慮することになると考えます。逆に渡来しない場合は他の場所へ移動したのと考えられますので、新たな対応は想定されないものと考えます。	坂東委員
9	参考資料3（非公開） P9	クマタカの営巣確認年度を教えてください。	平成25年から平成29年の5箇年において、営巣地3箇所では毎年いずれか1～2箇所で営巣が確認されました。 具体的営巣確認年は、[]ペアでは平成26年、平成27年、平成29年の3回、[]ペアでは平成25年の1回、[]ペアは平成25年、平成26年、平成28年の3回になります。	坂東委員